

A N N U A L R E P O R T 2 0 1 0

年 次 報 告 書



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

## ごあいさつ



財団法人国際花と緑の博覧会記念協会会長

### 今井 敬

1990年に開催された生命の祭典「国際花と緑の博覧会」の理念を永く継承発展させるために設立されたのが、財団法人国際花と緑の博覧会記念協会です。

以来、「自然と人間との共生」という理念の継承発展に関する事業を行うとともに、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的とした数々の事業を行ってまいりました。

2010年度は、当協会の主要事業である「コスモス国際賞」(第18回)に、米国のワシントン大学名誉教授エステラ・B. レオポルド博士を選出しました。レオポルド博士は、博士の父アルド・レオポルド氏が提唱した「土地倫理」の思想を継承、追求するとともに、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残され、現在でも人々の暮らしと社会の中に土地倫理を組み込む活動を続けられています。これは、地球上の各地における自然環境保全、生物保全に対して普遍性をもつものであり、「自然と人間との共生」を目指すコスモス国際賞にふさわしい優れた業績と評価いたしました。

普及啓発・継承発展事業におきましても、主催、共催、助成などさまざまな活動を行うとともに、花の万博開催20周年記念事業におきましては、フラワーカーペット、花と緑のフォーラム等に関係機関、団体等のご支援、ご協力を得ながら行い、有意義な成果をあげることができました。

2011年度も、これまでの実績を踏まえながら、更なる事業の推進を図っていきたいと考えています。また、2012年度はコスモス国際賞が第20回の節目を迎えることから、記念事業の実施に向け、準備を進めたいと存じます。

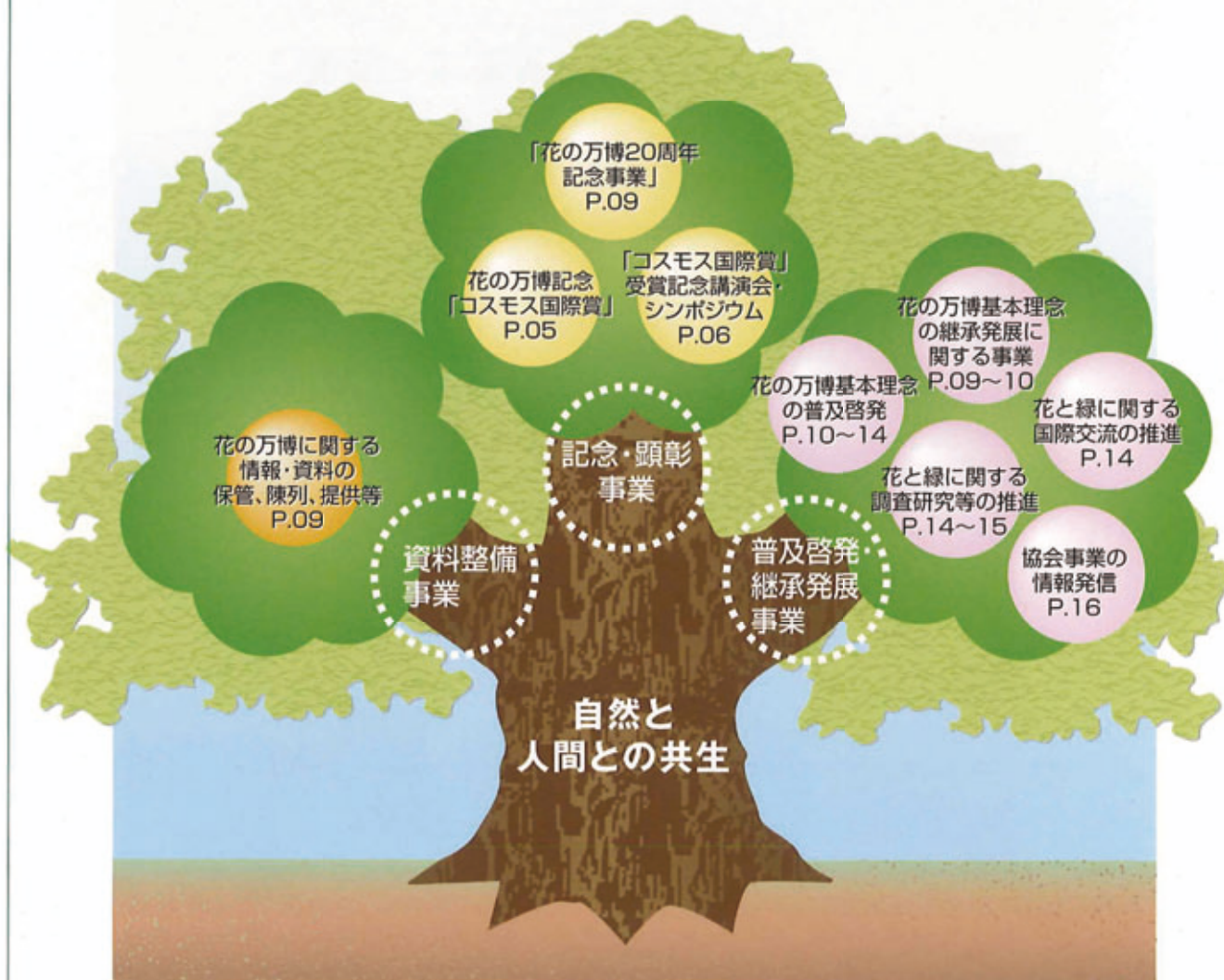
皆様方の当協会に対する更なるご支援とご協力をお願いいたします。

## 皇太子同妃両殿下下ご接見



コスモス国際賞受賞者エステラ・B、レオポルド博士は、皇太子同妃両殿下とお会いになった。  
(平成22年10月12日 東宮御所にて)

国際花と緑の博覧会記念協会は、潤いのある豊かな社会の創造に寄与することを目的として、「自然と人間との共生」という基本理念の継承・発展につながる多様な事業を実施しています。



#### 設立趣意書

平成2年4月1日から9月30日までの183日間、大阪・鶴見緑地において開催された国際花と緑の博覧会は、多くの人々に花と緑に象徴される命、それをはぐくむ大きな自然の営みに目を向けさせ、新鮮な感動を呼んだ。人間も自然のなかで生きる存在としてとらえ、自然と人間との共生の道をさぐるうとした博覧会のねらいは、ひとまず達成されたものと考えられる。

しかし、こうした理念の下に21世紀に向けて潤いのある豊かな社会を創造していくためには、国をあげてのたゆみない継続した努力が必要とされる。その点火役となった博覧会を一過性に終わらせることなく、その基本理念を継承、発展させ、新しい社会創造の動きに結実させていくことは、われわれ博覧会に携わった者の責務であるとする。

そのため、博覧会に携わった関係者の協力を得て、ここに財団法人国際花と緑の博覧会記念協会を設立し、21世紀に向けた潤いのある豊かな社会創造の一助とすることにより永くその責務をはたそうとするものである。

記念・  
顕彰事業

花の万博記念「コスモス国際賞」

コスモス国際賞 「自然と人間との共生」という基本理念を継承し、さらに発展させるため、この理念に沿った国内外の優れた研究活動や業績を顕彰する花の万博記念「コスモス国際賞」(以下「コスモス賞」)の2010年(第18回)受賞者の選考結果を承認し、受賞式等を次の通り実施しました。

受賞者の選考等

学識経験者14名(国内10名、海外4名)によるコスモス賞委員会(以下「賞委員会」)及び学識経験者10名(国内8名、海外2名)によるコスモス賞選考専門委員会(以下「選考委員会」)を設置し、選考作業を行いました。

<平成22年(2010年)受賞者の選考・決定等>

- 第1回賞委員会(平成21年10月27日)
- 第1回選考委員会(平成22年2月1日)
- 第2回・第3回選考委員会(平成22年5月31日、6月2日)
- 第4回選考委員会(平成22年6月28日)
- 第2回賞委員会(平成22年6月28日)

2010年コスモス賞受賞者にエステラ・B. レオポルド博士(ワシントン大学名誉教授)を決定  
第62回理事会(平成22年7月26日)

賞委員会の決定を承認し、同日内外の報道機関に対し、記者発表等を実施。



2010年(第18回)コスモス賞受賞者  
エステラ・ベルグレ・レオポルド博士  
ワシントン大学名誉教授

レオポルド博士は、父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」を継続、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。また、現在でも人々の暮らしと社会の中に土地倫理を組込む活動を続けている。

<平成23年(2011年)受賞者の選考・決定等>

- 第1回賞委員会(平成22年10月14日)
- 第1回選考委員会(平成23年1月15日)

2010年(第18回)コスモス賞授賞式等の開催

国内外の賓客及び招待者約400名の参列のもと、厳粛かつ華やかに実施しました。

授賞式

日時:平成22年10月14日(木) 午後3時~午後5時  
場所:いずみホール [大阪市中央区]  
出席者:約400名

次第:開会 賞委員及び選考専門委員等の紹介 主催者紹介  
来賓紹介(エドワード・ドン駐大阪・神戸米国総領事館  
総領事、松木けんこう農林水産大臣政務官、小林裕幸  
国土交通大臣官房審議官、小河保之大阪府副知事、  
野々村節子大阪市ゆとりとみどり振興局長)  
主催者挨拶 授賞理由及び受賞者の紹介 受賞者入場  
賞状・賞金目録贈呈 メダル贈呈 来賓祝辞 受賞者  
挨拶 祝賀演奏 閉会

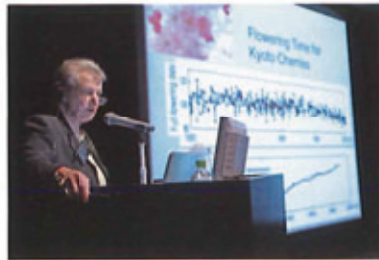


記念・  
顕彰事業

「コスモス国際賞」受賞記念講演会

コスモス国際賞 受賞記念講演会  
コスモス国際賞授賞式の関連行事として2010年受賞者エステル・B.レオポルド博士による講演会を開催しました。

		● 京 都	● 東 京
日 時		平成22年10月11日(月・祝) 午後1時30分～午後4時	平成22年10月16日(土) 午後1時30分～午後4時30分
場 所		京都大学芝蘭会館 [京都市左京区]	国連大学ウ・タント国際会議場 [東京都渋谷区]
講 演	テーマ	「土地倫理」の意義と実践について ～自然と人間との共生をめざして～	
	講 師	2010年(第18回)コスモス国際賞受賞者 エステラ・B.レオポルド博士	
付 属 事 業	テーマ	エステル・B.レオポルド博士の世界	
	パネリスト等	プレゼンター 松下和夫 (コスモス国際賞選考専門委員会副委員長)	シンポジウム パネリスト 井田 徹 治 (共同通信社科学部編集委員) 桑 子 敏 雄 (東京工業大学大学院教授) 長谷川真理子 (総合研究大学院大学教授) 鷺谷いづみ (東京大学大学院教授)
		対談 エステル・B.レオポルド博士 阿 部 健 一 (総合地球環境学研究所教授)	コーディネーター 加 藤 尚 武 (鳥取環境大学名誉学長)
参加者	約130名	約180名	
後 援	農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、アメリカ大使館		



受賞者  
高校派遣

次世代を担う高校生育成のため、昨年度に引き続き受賞者を高校に派遣しました。

日 時	平成22年10月18日(月) 午後3時40分～午後5時
場 所	東京都立日比谷高等学校 [東京都千代田区]
テーマ	「土地倫理」の意義と実践について ～自然と人間との共生を目指して～
講 師	2010年(第18回)コスモス国際賞受賞者 エステラ・B.レオポルド博士
参加者	1年生等 約400名



## 花の万博記念「コスモス国際賞」委員会委員

平成22年1月1日現在

委員長	有馬 朗人	(財)日本科学技術振興財団会長
副委員長	岸本 忠三	大阪大学大学院教授
委員	岩槻 邦男	兵庫県立人と自然の博物館館長
委員	梅棹 忠夫	国立民族学博物館顧問(平成22年7月物故)
委員	グンナー・オークスト	スウェーデン王立科学アカデミー事務局長
委員	加藤 雅啓	国立科学博物館植物研究部長
委員	黒川 清	元日本学術会議会長
委員	A.H.ザクリ	元国連大学高等研究所所長
委員	鈴木 昭憲	東京大学名誉教授
委員	中根 千枝	前日本学士院第一部部長
委員	中村 桂子	JT生命誌研究館館長
委員	オーレ・フィリップソン	博覧会国際事務局(BIE)名誉議長
委員	サー・ギリアン・フランス	エデン・プロジェクト科学部長
委員	村上陽一郎	東京理科大学大学院教授

## 花の万博記念「コスモス国際賞」選考専門委員会委員

平成22年1月1日現在

委員長	加藤 雅啓	国立科学博物館植物研究部長
副委員長	松下 和夫	京都大学大学院教授
委員	今福 道夫	京都大学大学院名誉教授
委員	餌取 章男	(独)物質・材料研究機構広報アドバイザー
委員	小山 修三	吹田市立博物館館長
委員	武内 和彦	東京大学大学院教授
委員	長谷川 真理子	総合研究大学院大学教授
委員	ハン・クンリ	ユネスコ テヘラン事務所所長
委員	P・ディー・ボーズマ	ワシントン大学教授
委員	クスワタ・カルタウィナタ	元ユネスコ環境科学上級アドバイザー

## コスモス国際賞歴代受賞者

記念協会の主事業である花の万博記念「コスモス国際賞」は、「自然と人間との共生」という理念の発展に貢献し、「地球生命学」とも呼ぶべき、地球的視点における生命相互の関係性、統合性の本質を解明しようとする研究活動や学術活動を顕彰するために設けられた国際的な顕彰です。

第1回 平成5年(1993)

ギリアン フランス卿  
Sir Ghilleain Tolmie France



イギリス・王立キュー植物園園長  
南米アマゾン地域を中心とする熱帯植物研究の権威。地球全体の植生を統一データ化する地球植物誌計画を提唱、世界の植物学者とネットワークを組んで実現に努力した。

第2回 平成6年(1994)

ジャック フランソワ バロー  
(物故)  
Dr. Jacques Francois Barrau



フランス・パリ国立自然史博物館教授  
太平洋の島々の自然と人々の暮らしについて民族生物学的な調査研究を行い、これをもとに人間と食糧をテーマに、全地球的な視点からユニークな考察を発表した。

第3回 平成7年(1995)

吉良 龍夫  
Dr. Kira Tatuo



日本・滋賀県顧問、前琵琶湖研究所所長、大阪市立大学名誉教授  
光合成による植物の有機物生産の定量的研究をもとに、生態学の新分野となる生産生態学を確立。東南アジア地域の熱帯林生態系の研究で指導的な役割をつとめた。

第4回 平成8年(1996)

ジョージ ビールズ シャラー  
Dr. George Beals Schaller



アメリカ・野生生物保護協会科学部長  
40年にわたり、世界各地で様々な野生動物の生態と行動を研究。「マウンテンゴリラ・生態と行動」「ラストパンダ」など数多くの著書で全世界に野生動物の実態を知らせた。

第5回 平成9年(1997)

リチャード ドーキンス  
Dr. Richard Dawkins



イギリス・オックスフォード大学博士  
1976年に出版された著書「利己的な遺伝子」で、生物学の常識を覆す大胆な仮説を発表。その後も、生物の進化について新しい見解を提示して、学会に論争を起こした。

第6回 平成10年(1998)

ジャレド メイスン ダイヤモンド  
Dr. Jared Mason Diamond



アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校医学部教授  
医学部教授として生理学を研究する一方、30年にわたりニューギニアの熱帯調査を行い、これらをもとに人類の歴史的な発展を再構成した。

## コスモス国際賞歴代受賞者

第7回 平成11年(1999)

ウー チェン イー(呉 征鎰)  
Dr. Wu Zheng-Yi中国・中国科学院昆明植物研究所教授、名誉所長  
地球上で植物の種の最も豊かな地域の一つである中国全土の植物約3万種を網羅した『中国植物誌』の編集を主宰し、開発途上国における生物多様性に貢献した。

第8回 平成12年(2000)

デービッド アッテンボロー卿  
Sir David Frederick Attenboroughイギリス・映像プロデューサー、自然誌学者、動物学者  
野生生物のドキュメンタリー映像のバイオニア。地球上の様々な動植物についての卓越した映像を通して、全世界の人々に生命の本質について訴えた。

第9回 平成13年(2001)

アン ウィストン スパーン  
Prof. Anne Whiston Spirnアメリカ・マサチューセッツ工科大学教授  
「都市と周辺環境とが調和した地域づくり」を提唱、自然と都市との共生をテーマに地域計画に取り組んだ。また自然と人間との関わりについて「景観を読む」という新しい視点を提示した。

第10回 平成14年(2002)

チャールズ ダーウィン研究所  
The Charles Darwin Research Stationエクアドル  
ガラパゴス諸島の陸上、海域両面にわたる生物と生態系の調査を行い、島の自然を守る直接活動のほか、島の住民への環境教育、島の現状を全世界に伝える出版など、多角的な活動を行った。

第11回 平成15年(2003)

ピーター ハミルトン レーブ  
Dr. Peter Hamilton Ravenアメリカ・ミズーリ植物園園長  
花と昆虫の共進化に関する研究を発表、花生物学分野の研究の端緒をつくった。人類生存には、地球の生物多様性保全が不可欠であると世界で最初に提起した。

第12回 平成16年(2004)

フーリャ カラビアス リジョ  
Prof. Julia Carabias Lilloメキシコ・メキシコ国立自治大学理学部教授  
常に途上国の立場から全地球的な環境問題を考え、徹底したフィールドワークとさまざまな学問分野の研究を統合する手法でプログラムを実施し、異なる条件下での困難な課題にすぐれた成果を挙げてきた。

第13回 平成17年(2005)

ダニエル ポーリー  
Dr. Daniel Paulyカナダ・プリティッシュ・コロンビア大学水産資源研究所所長兼教授  
幅広い視野と長期的視点で漁業と海洋生態系の関連を包括的に研究し、海洋生態系保全と水産資源の持続的利用を可能にする科学的モデルの開発など、海洋生態系と資源研究の分野ですぐれた業績を収めた。

第14回 平成18年(2006)

ラマン スクマール  
Dr. Raman Sukumarインド・インド科学研究所生態学センター教授  
ソウと人間との生態関係や軋轢への対処をテーマとした研究から、生物多様性保護と自然環境の保全全般にわたる多くの提言を行い、かつ実行し、野生生物と人間との共存という分野での先駆的な取り組みを行った。

第15回 平成19年(2007)

ジョージナ メアリー メイス  
Dr. Georgina Mary Maceイギリス・ロンドン大学NERC(自然環境調査会議)  
個体群生物学研究センター所長兼教授  
絶滅危惧種を特定・分類し、科学的な基準を作成することにおいて指導的役割を果たし、種の保全、生物多様性保全に大きく貢献する取り組みを行った。

第16回 平成20年(2008)

ファン ゲン ホン  
Dr. Phan Nguyen Hongベトナム・ハノイ教育大学名誉教授  
戦争や乱開発がマングローブの生態系に壊滅的な打撃を与えたベトナムで、マングローブの科学的、包括的な調査・研究を行い、マングローブ林の再生に大きな成果をあげた。中でもカンザー地区のマングローブ林再生・保全は世界で類のないものである。

第17回 平成21年(2009)

グレッチェン カーラ デイリー  
Dr. Gretchen Cara Dailyアメリカ・スタンフォード大学教授  
人類社会が依存する生物多様性のもつ「生態系サービス」の価値を包括的に捉えて、生態学・経済学を統合し、自然資本の持続的な利用のために「自然資本プロジェクト」を実施する等大きな役割を果たした。

第18回 平成22年(2010)

エステラ ベルグレ レオポルド  
Dr. Estella Bergere Leopold IIアメリカ・ワシントン大学名誉教授  
父アルド・レオポルド氏(1887-1948)が提唱した「土地倫理」を継承、追求すると共に、アメリカ各地においてこの考えを広げるなど、多大な功績を残した。また、現在でも人々の暮らしと社会の中に土地倫理を組込む活動を続けている。



資料整備  
事業

花の万博に関する情報・資料の保管、陳列、提供等

映像による  
日本植物誌

日本の野生植物約4,000種を動画（約850時間）にて撮りためたPPH（プラント・フォト・ハンティング）を元に「日本列島の花 早春の花」「日本列島の花 春の花」「日本列島の花 晩春から初夏の花」「日本列島の花 夏の花」「小笠原諸島の植物たち」の5作品を制作しました。なお、作品は当協会ホームページに掲載しています。



情報等の提供

上海万博及び各種イベント等の主催者に対し、花の万博のノウハウ、情報等の提供を行いました。

海外・国・地方自治体	2件
企業及び個人等	10件

普及啓発・  
継承発展  
事業

花の万博基本理念の継承発展に関する事業

生物多様性関連  
施策の実態と効果  
等に関する調査

2010年が国際生物多様性年と位置づけられ、COP10が開催されるなど、生物多様性の維持、保全は地球規模での重要な課題である中、行政やNPOなどの生物多様性に関わる活動について調査を行いました。

里山における  
共生に関する調査

生物多様性年の国際会議COP10でも循環型社会モデルとして紹介された里山は「自然と人間との共生」という理念の具現的場所であることから、その自然環境やそれをとりまく文化などの事例調査を行いました。

KOSMOS  
フォーラム

我が国の第一線の科学者の英知を集め、宇宙の新しい全体像を包括的に考察し、その中で人類の果たすことができる役割を探ろうというのがKOSMOSフォーラムです。平成22年度は「統合的視点で見る『食』とは」を統一テーマに、東京で2回開催しました。また、「統合的視点でみる静岡とは」というテーマで静岡でも開催しました。

第21回 テーマ 統合的視点で見る『食』とは ～日本人は食とどう関わってきたか～

日 時：平成22年11月28日(日) 午後2時～4時30分

場 所：ベルサール飯田橋 [東京都千代田区]

パネリスト：あん・まくどなど（国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長）  
小泉 武夫（文筆家・東京農業大学名誉教授）  
高田 公理（佛教大学教授）  
中嶋 康博（東京大学食の安全研究センター副センター長）

コーディネーター：熊倉 功夫（静岡文化芸術大学学長）

参加者：約300名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



第22回 テーマ 統合的視点で見る『食』とは ～人類は何を食べていたのか～

日 時：平成23年1月16日(日) 午後2時～4時30分

場 所：ベルサール九段 [東京都千代田区]

パネリスト：秋 道 智 彌（総合地球環境学研究所副所長・教授）  
石 毛 直 道（国立民族学博物館名誉教授）  
今 井 通 子（医学博士・登山家）  
林 良 博（東京農業大学教授）

コーディネーター：あん・まくどなど（国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長）

参加者：約300名

後 援：農林水産省、国土交通省、文部科学省、環境省、日本学士院



## 2010年度事業実績

### 普及啓発・ 継承発展 事業

#### KOSMOS フォーラム

地方版 テーマ 統合的視点で見る静岡とは ～歴史・文化・風土～  
日 時：平成23年1月29日(土) 午後2時～4時30分  
場 所：静岡市民文化会館【静岡市葵区】  
あいさつ：川勝平太(静岡県知事)  
パネリスト：木苗直秀(静岡県立大学学長)  
後藤加寿子(料理研究家)  
中村羊一郎(静岡産業大学教授)  
米屋武文(静岡文化芸術大学教授)  
コーディネーター：熊倉功夫(静岡文化芸術大学学長)  
参加者：約210名  
後 援：静岡新聞社・静岡放送、静岡科学館指定管理者(財)静岡市文化振興財団



#### 花の万博基本理念の普及啓発

##### コスモスセミナー

「自然と人間との共生」という理念の継承発展のため、コスモス賞や協会に関係する学者、知識人等を講師に招き実施しているもので、平成22年度は、次のとおり屋外での自然観察(フィールド型)セミナー、講師派遣型セミナーを行いました。



##### 「自然観察教室」 ～生まれ昆虫 好きな子供たち 2010～

開催日：平成22年8月2日(月)～8月4日(水)  
場 所：関西学術研究都市清滝・室池地区「アイ・アイ・ランド」【大阪府四條畷市】  
講 師：保田淑郎(大阪府立大学名誉教授)  
今福道夫(京都大学名誉教授)  
谷 幸三(大阪産業大学講師)  
南 尚美(奈良生物研究会幹事)  
参加者：近畿圏の小学5～6年生 30名  
特別協力：(財)奈良先端科学技術大学院大学支援財団  
後 援：大阪府、大阪府教育委員会、奈良県、奈良県教育委員会、四條畷市、四條畷市教育委員会、生駒市、生駒市教育委員会、日本環境教育学会、日本環境動物昆虫学会、日本昆虫学会、日本生態学会、日本動物行動学会、日本鱗翅学会、日本昆虫協会、JT生命誌研究館



##### 小学校講師派遣

テーマ「森林について」  
日 時：平成22年6月7日(月)(3・4時間目)  
場 所：奈良市立登美ヶ丘小学校【奈良県奈良市】  
講 師：谷 幸三(大阪産業大学講師)  
参加者：小学校5年生 104名

テーマ「ヤゴの生活、体、飼い方など」  
日 時：平成22年6月18日(金)(3・4時間目)  
場 所：亀岡市立亀岡小学校【京都府亀岡市】  
講 師：谷 幸三(大阪産業大学講師)  
参加者：小学校3年生 85名

テーマ「佐保川の水生生物について」  
日 時：平成22年9月3日(金)(3・4時間目)  
場 所：奈良市立大安寺西小学校【奈良県奈良市】  
講 師：谷 幸三(大阪産業大学講師)  
参加者：小学校3年生 85名

テーマ「昆虫のくらし」  
日 時：平成22年11月1日(月)(3・4時間目)  
場 所：高槻市立磐手小学校【大阪府高槻市】  
講 師：谷 幸三(大阪産業大学講師)  
参加者：小学校3年生 113名

テーマ「昆虫のくらし」  
日 時：平成22年11月2日(火)(4時間目)  
場 所：舞鶴市立岡田下小学校【京都府舞鶴市】  
講 師：谷 幸三(大阪産業大学講師)  
参加者：小学校1～6年生 57名

テーマ「生命：自然と人間の関りについて」  
日 時：平成22年11月19日(金)(3・4時間目)  
場 所：京都市立南太秦小学校【京都府京都市】  
講 師：佐藤洋一郎(総合地球環境学研究所副所長・教授)  
参加者：小学6年生 58名



◆花と緑に関する全国的な普及啓発

- 第20回(2010年) 全国花のまちづくりコンクール** 花の万博の開催を契機に、「花と緑の国づくり・まちづくり」をめざして、農林水産省並びに国土交通省の提唱により平成3年度に創設された本コンクールに、次のとおり参画しました。  
 応募数：1,368件  
 入賞：農林水産大臣賞及び国土交通大臣賞 各2点をはじめ25点  
 表彰式  
 開催日：平成22年10月22日(金)  
 場所：法曹会館 [東京都千代田区]  
 受賞者：市町村、団体、個人、企業の4部門  
 主催：花のまちづくりコンクール推進協議会  
 [(財)国際花と緑の博覧会記念協会、(財)日本花の会、(財)都市緑化基金、(財)日本花普及センター]



◆花の万博開催の地元における普及啓発(府市理念継承事業)

花の万博開催の地元において基本理念の継承発展・普及啓発に関する事業を地元公共団体及び関連団体と共同して実施しました。

- 第26回 大阪府 都市緑化フェア** 花と緑あふれる豊かな街づくりを進めるため、都市緑化に関する府民の意識の高揚や知識の普及を図ることを目的に、毎年10月の都市緑化月間に開催しています。平成22年度は高槻市で開催された第26回大阪府都市緑化フェアの実行委員会に参画し、支援を行いました。また、会場内の出展ブースにおいて協会のPRコーナーを設け、花の万博20周年記念事業の紹介パネルの展示を行いました。  
 開催日：平成22年10月17日(日)  
 場所：城跡公園 [大阪府高槻市]  
 来場者：約4,200人  
 内容：花苗・球根の配布、植木市、緑化相談、園芸講習会など  
 主催：第26回大阪府都市緑化フェア実行委員会



- 緑化ボランティアのためのネットワーク支援業務** 大阪府域における緑化を府民協働により推進していくため、緑化ボランティアのネットワークの強化、構築に対して支援しました。  
 主催：(社)大阪府公園・都市緑化協会



- みどりの大阪 東西軸モデル作成業務** 大阪芸術大学との連携により、「みどりの風を感じる大都市」の実現をめざし、緑の東西軸形成イメージを具体的に示せるジオラマモデルの作成を行いました。  
 主催：大阪芸術大学

- 大阪フラワー・ガーデンショー 2010** 大阪市民の花や緑のまちづくりへの関心を高め、花と緑を育てる伝統や文化への理解を喚起し普及啓発を促すとともに、花緑関連業界の交流と活性化を目的に開催しました。  
 開催日：平成22年4月9日(金)～11日(日)  
 場所：花博記念公園鶴見緑地内 水の館展示ホール [大阪市鶴見区]  
 主催：大阪フラワー・ガーデンショー2010実行委員会 [(財)国際花と緑の博覧会記念協会、大阪園芸商組合、大阪園芸サービス協同組合、大阪市、(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会ほか]



- 「大阪のみどりと環境」普及啓発事業** 都市における生物多様性の大切さの認識を深めるために、都市環境の中でみどりが果たす役割を伝える「生物多様性シンポジウム」の開催を行いました。また、「生き物たちのドラマ」の印刷製本に対する支援を行いました。  
 主催：(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会ほか



- 「花の万博 20周年記念事業」出展業務** 大阪府、大阪府がこれまで取り組んできた理念継承事業を「花の万博20周年記念 花・緑フェスタ」において紹介するパネルや映像の作成を支援しました。  
 主催：(財)大阪市スポーツ・みどり振興協会

- 花と緑のみちモデルプロジェクト** 大阪府下において、道路や河川などの軸となるみどりや都市公園など拠点となるみどりの連結性を確保する手法を検討するために、大阪府が行う調査に対して支援しました。また、冷涼な海風を大阪市域の都心部まで引き込むことでヒートアイランド現象の緩和を図る「風の道」を形成するために、大阪府が行う基礎調査に対して支援しました。

## 2010年度事業実績

### 普及啓発・ 継承発展 事業

#### ◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催による実施、また協賛等を行いました。

#### 都市緑化推進 運動

国土交通省、都道府県、市町村が主催して毎年全国的規模で実施される春の都市緑化推進運動期間(4~6月)及び都市緑化月間(10月)における「みどりの愛護のつどい」や都市緑化キャンペーン活動等の事業に対して、都市緑化推進運動協力会に参加し、各種の国土交通省関連団体と共に協力等を行いました。

#### まちづくり月間

平成21年6月の第27回「まちづくり月間」における中央行事(表彰式、シンポジウム)、写真コンテストや標語募集等の事業実施について、関係団体と共に実行委員会に参画、協賛を行いました。

#### 近畿都市緑化祭

近畿地方における都市緑化を推進するため、都市圏域内の行政団体等が連携して、毎年10月の都市緑化月間中に京阪神の府県指定市が持ち回りで開催しています。平成22年度は、大阪府で開催された「グリーンサーカス2010」に対して事業の支援、協賛を行いました。

開催日：平成22年10月9日(土)

場 所：服部緑地都市緑化植物園 [大阪府豊中市]

来場者：約300人

主 催：近畿都市緑化推進連絡協議会、みどりの5団体合同フォーラム

内 容：園芸教室、自然素材を使ったクラフト教室、都市公園の紹介、パネル展示など



#### 後援等一覧

●催事名(開催時期)	●開催場所	●主 催	●名義
「オオクワガタの棲める森づくり」植樹祭(H22.3月~5月)	エキスポ'90みのお記念の森	近畿中国森林管理局	後 援
第14回花と緑の街づくりコンクール(H22.4.1~11.30)	大阪府下	社団法人大阪府公園・都市緑化協会	後 援
大阪フラワーガーデンショー2010(H22.4.9~4.11)	花博記念公園鶴見緑地-水の館ホール(大阪市鶴見区)	「大阪フラワーガーデンショー」実行委員会	会 長 賞
高校生フラワーアレンジコンテスト2010(H22.4.29)	花博記念公園鶴見緑地-水の館ホール(大阪市鶴見区)	高校生フラワーアレンジコンテスト実行委員会	会 長 賞
第12回国際バラとガーデニングショウ(H22.5.12~5.17)	「西武ドーム」(埼玉県所沢市)	国際バラとガーデニングショウ組織委員会	後 援
大阪ばら祭2010(H22.5.14~5.16)	花博記念公園鶴見緑地内咲くやこの花館(大阪市鶴見区)	財団法人大阪市スポーツ・みどり振興協会	後 援
生物多様性シンポジウム~いきものと暮らすことが楽しくなるまち、大阪~(H22.8.7)	大阪国際交流センター(大阪市天王寺区)	生物多様性シンポジウム実行委員会	後 援
平成22年度「都市緑化月間」(H22.10.1~10.31)	全国	国土交通省、都道府県、市町村	協 賛
第47回大阪城菊の祭典(H22.10.18~11.14)	大阪城公園内(本丸地区)(大阪市中央区)	大阪市	後 援
かんさいフラワーショー2010(H22.11.19~11.21)	花博記念公園鶴見緑地-水の館ホール(大阪市鶴見区)	かんさいフラワーショー2010実行委員会	後 援
第65回日本おもと名品展(H22.11.28~11.29)	ニューピアホール(東京都港区)	社団法人日本おもと協会	後 援
平成22年度大阪府立花の文化園幼児・小中学生花の絵画展(H23.1.5~2.6)	大阪府立花の文化園(大阪府河内長野市)	財団法人大阪府みどり公社	後 援
淡路夢舞台ラン展2011(H23.1.22~3.6)	兵庫県立淡路夢舞台温室「奇跡の星の植物館」(兵庫県淡路市)	株式会社夢舞台	後 援
シンポジウム~いま焼畑とは 生物多様性とこれからの暮らしの「かたち」~(H23.1.23)	京都大学芝罫会館(京都市左京区)	総合地球環境学研究所	後 援
小品盆栽フェア「第19回春雅展」(H23.3.25~3.27)	花博記念公園鶴見緑地-水の館ホール(大阪市鶴見区)	春雅展実行委員会	後 援

## 花と緑に関する国際交流の推進

### BIEコスモス賞への支援

花博記念協会の存在とコスモス国際賞の海外広報のため、平成19年度より実施している「BIEコスモス賞」を支援しました。平成22年度は、BIE（博覧会国際事務局：本部パリ）と上海万博協会（中国）が実施した「BIEコスモス賞」の受賞者「For Our Daughters」への賞金2万ユーロを提供しました。授賞式は上海万博のBIEデーである平成22年10月30日に行われました。



## 花と緑に関する調査研究等の推進

### 平成23年度助成対象の決定

博覧会の基本理念の継承発展又は普及啓発に資する調査研究、技術開発、活動、行い事等を支援するため、平成23年度の助成を次のとおり決定しました。

#### 〈公募〉

公募期間：平成22年10月12日（火）～11月24日（水）

応募件数：53件

#### 〈審査〉

審査期間：平成22年12月～平成23年2月

#### 〈決定〉

審査結果報告をもとに、理事長が助成可否を決定し、平成23年3月25日（金）開催の第68回理事事会において報告を行い、助成対象となった19団体に通知しました。

### 平成22年度助成対象一覧

平成22年度に実施された19件の事業について助成しました。

● 事業区分	● 助成対象事業名	● 助成対象団体名
調査研究開発	旭川市蛇紋岩地帯の植物の調査研究	財団法人 旭川市公園緑地協会
	キリシマツツジにみる江戸園芸文化交流に関する研究	NPO法人 のとキリシマツツジの郷
	琵琶湖水系の特定外来植物防除効率の向上に関する研究	近江ウェットランド研究会
	リハビリテーション専門職による園芸作業の分析と実践	大阪河崎リハビリテーション大学 園芸療法勉強会
	第3回国際メタセコイアシンポジウムの開催と普及活動	第3回国際メタセコイアシンポジウム実行委員会
	トウツバキ園芸品種の保全に関する日中共同研究	財団法人 花と緑の銀行
	全国セミの抜け殻しらべ	セミの抜け殻しらべ 市民ネット
	タンポポ調査・西日本2010	タンポポ調査・西日本2010実行委員会
	中央アルプス高山植生の長期モニタリング	NPO法人 山の自然学クラブ
	東アジアのランドスケープ・緑化研究動向の実態把握	東アジアランドスケープ研究会若手部会
活動・行い事	野生ニホンリス保全活動とその中での環境教育	守山リス研究会
	「水源の森プログラム」	NPO法人 森林の風
	自然環境保全事業	城陽環境パートナーシップ会議
	日本の花文化の継承と国際化に関するシンポジウム	淡路花博2010花みどりフェア アドバイザー委員会
	全国オープンガーデンフォーラム in Awaji	全国オープンガーデンフォーラム in Awaji 実行委員会
	亀岡市植生調査	亀岡植物誌研究会
	生きもの生息環境調査の継承と環境学習リーダーの育成	貝塚市立自然遊学館「わくわくクラブ」
	植物園シンポジウム～ふるさとの植物を守ろう～	社団法人 日本植物園協会
	*ボランティアがボランティアを育てる* 園芸塾の運営	NPO法人 メリーポピンズの会

普及啓発・  
継承発展  
事業

平成22年度  
主な助成対象事業



中央アルプス高山植生の長期モニタリング



旭川市蛇紋岩地帯の植物の調査研究



自然環境保全事業

※他16事業

助成事業  
成果発表会

助成事業成果発表会を講演会とともに開催しました。

開催日：平成22年11月6日（土）  
場 所：ホテルさっぽろ芸文館〔北海道札幌市〕  
来場者：約100人  
内 容：過去の助成対象者の中から5団体が事業の内容やその成果についての発表を行い、併せて「居心地のよい空間づくり～もっと植物のことを知ろう～」と題して、杉井志織氏（園芸家）による講演会を開催しました。  
後 援：農林水産省、国土交通省、北海道・札幌市ほか15団体

講演会



花博記念協会助成事業審査会 委員 平成23年3月31日現在

委員長	近藤 公夫	奈良女子大学 名誉教授
副委員長	尼崎 博正	京都造形芸術大学 教授
委員	今西 英雄	JFTD学園日本フラワーカレッジ 校長
委員	佐倉 統	東京大学大学院情報学環 教授
委員	須磨佳津江	キャスター・ジャーナリスト
委員	長村 智司	大阪テクノ・ホルティ園芸専門学校 校長
委員	服部 明世	財団法人 都市緑化技術開発機構 理事長
委員	鷺谷いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授

協会事業の情報発信

ホームページ  
運営

当協会ホームページや「コスモス国際賞」、「KOSMOS フォーラム」の各ウェブサイトを実施事業の理解促進・普及のために活用するとともに、情報の更新、サイトの維持管理を行いました。



<http://expo90.jp/>



<http://www.expo-cosmos.or.jp/>



<http://www.kosmos-forum.org/>

コスモス国際賞  
パンフレットの  
刷新

最新受賞者情報を掲載した冊子を作成しました。



協会事業紹介  
パンフレットの  
作成

協会事業紹介パンフレットを作成し、名古屋で開催されたCOP10で関連ブースにて配布しました。



プレスネット  
ワークの構築

当協会事業の発信性を高めるため、新聞社との共催事業を実施する等、協力体制（プレスネットワーク）の構築を図りました。

毎日新聞社との共催「小・中学校における生態園づくり」  
（特別協力：大阪府立園芸高等学校）

場 所：奈良市立柳生中学校 [奈良県奈良市]  
内 容：湿地ビオトープ

場 所：京都市立美豆小学校 [京都府京都市]  
内 容：里山ビオトープ

場 所：大阪市立大開小学校 [大阪府大阪市]  
内 容：トンボ池

場 所：大阪市立北粉浜小学校 [大阪府大阪市]  
内 容：トンボ池

場 所：神戸市立春日野小学校 [兵庫県神戸市]  
内 容：水辺ビオトープ



20周年  
記念事業

花の万博20周年記念事業

平成22年に国際花と緑の博覧会から20年を迎えたことから、20周年記念事業を実施しました。

花の万博  
20周年  
記念式典

花の万博20周年を記念する式典を、招待客、公募参加者の参加のもと開催しました。

日 時：平成22年4月30日(金) 午後3時～午後5時

場 所：いずみホール [大阪市中央区]

参加者：400名

次 第：(第1部) 主催者挨拶、来賓祝辞、記念切手贈呈式  
(第2部) 映像で振り返る花の万博、理念継承20年の歩み、  
フラワーカーペットデザイン画表彰式、  
記念演奏 バイオリン 奥村愛 他



絵画展  
「花の万博の  
日本画展」

花の万博当時「花と緑・日本画美術館」で展示されていた日本画50点全作品を佐藤美術館の協力を得て、展示しました。

日 時：平成22年4月14日(水)～26日(月)

場 所：大丸心斎橋北館14Fイベントホール・劇場 [大阪市中央区]

入場者：約6,500人



花・緑フェスタ

花博記念公園鶴見緑地で様々なイベントを実施しました。

日 時：平成22年4月29日(祝・木)～5月5日(祝・水)

場 所：鶴見緑地 (大阪市鶴見区)

参加者：約26万人

①フラワーカーペット：4月29日～5月3日

富山県花卉球根農業協同組合の協力を得て、廃棄されるチューリップの花弁を用いて、約600名のボランティアの方が地上に花絵を制作しました。

デザイン画は、全国から542件の応募があり、大阪市在住の洋画家 祢宜吉子氏の審査により10点の入賞作と17点の佳作を選びました。入選者は花の万博20周年記念式典で表彰し、入選作品を含む542件の原画は水の館ホール2階に展示しました。

また、展望車による観覧を行い、乗車料241,200円は、大阪府の「メイクアップロードOSAKA」に寄付しました。



②メモリアル展示・写真展：4月29日～5月5日

花の万博当時の会場風景や会場模型、コンパニオンユニフォーム等の展示を行い、併せて「花博写真美術館」に出品された約100点の自然の風景の写真等の展示を行いました。



③水の館ホール展示：4月29日～5月5日

水の館ホール屋内では「花と緑が創る豊かな生活と未来」をテーマに、花と緑に関係する32の各団体等による展示・出展とともに、高校生フラワーアレンジコンテストなど33の体験教室、講演などを行いました。(第20回ジャパンフラワーフェスティバル 2010 in 大阪)を併催)

また、屋外スペースではロハス・マルシェ展として、50を超える花と緑にかかわる生産者等による展示と物販を実施しました。





- ④スポットガーデン：4月29日～5月5日  
「花のある生活の庭」をテーマに造園関係団体の協力を得て、15の庭（1区画：3.0m×2.5m）を展示しました。



- ⑤ハンギングバスケット：4月29日～5月5日  
日本ハンギングバスケット協会のマスターが制作した26基のハンギングバスケットの展示を行いました。



- ⑥屋外ステージイベント：5月3日～5月5日  
鶴見区や守口市の市民団体など25団体による演奏、ダンスを行いました。5月5日には鶴見区他のだんじり15車によるだんじり囃子の演奏・展示が行われました。



(協賛催事)

	●期間	●場所
ジャパン・フラワー・フェスティバル2010	平成22年4月29日(祝・木)～5月5日(祝・水)	水の館ホール
はならんまん2010	平成22年4月29日(祝・木)～5月5日(祝・水)	いこいの広場
いけばな展	平成22年5月1日(土)～5月3日(祝・月)	むらさき亭
咲くやこの花館 花の万博20周年記念・特別展	平成22年4月1日(木)～5月9日(日)	咲くやこの花館

#### スタンプラリー

花博記念公園鶴見緑地で、国際庭園等現存する主な施設を周遊するスタンプラリーを実施しました。  
日 時：平成22年5月22日(土)、23日(日)  
場 所：鶴見緑地内  
参加者：約1,800人



#### 花・緑 フォーラム

環境に配慮したガーデニングや、自然と共生する住まい方などについてフォーラムを開催しました。  
日 時：平成22年5月16日(日) 午後1時30分～午後4時30分  
場 所：大阪市中央公会堂「大集会室」【大阪市中央区】  
テーマ：「花と緑による自然の創造～自然を感じる安らぎの庭」  
パネリスト：織 作 峰 子 (写真家、大阪芸術大学教授)  
田 中 哲 (造園家)  
熊 谷 哲 (兵庫県立大学教授)  
大桃美代子 (タレント、COP10応援大使)  
コーディネーター：涌 井 史 郎 (造園家、東京都市大学教授)  
記念演奏等：島 崎 政 子 (ソプラノ) 他 記念アンサンブル  
参加者：約600名  
共 催：毎日新聞大阪本社



20周年  
記念事業

FM802  
音楽コンサート

花の万博を知らない若者世代に花の万博の理念をわかりやすく体感してもらうため、音楽コンサートをFM802と開催しました。

日 時：平成22年6月13日(日)  
場 所：大阪城ホール(大阪市中央区)  
参加者：約8000人  
共 催：FM802



共生フォーラム

日 時：平成22年7月18日(日) 午後1時30分～午後4時30分  
場 所：丸ビルホール(東京都千代田区)  
テーマ：「地球生命の未来を探る～共生思想をどう生かすか」  
基調講演 岩槻邦男(兵庫県立人と自然の博物館館長)  
シンポジウム パネリスト：岩槻邦男(兵庫県立人と自然の博物館館長)  
高木美保(女優)  
林希一郎(名古屋大学教授)  
鬼頭秀一(東京大学大学院教授)  
コーディネーター：室山哲也(NHKキャスター)  
参加者：約200名



広報報道活動

花の万博や20周年記念事業のPR、記念協会の事業紹介を行うために朝日新聞社1階のオープンスペースで展示を行いました。  
日 時：平成22年4月5日(月)～16日(金)  
場 所：朝日新聞社1階アサコムホール(大阪市北区)



花すきんちゃんを広報に活用し、地下鉄長堀鶴見緑地線「開通20周年記念イベント」をはじめとする各種イベントに出演しました。また、大阪府知事、大阪市長、守口市市長を表彰訪問しました。



花の万博20周年記念サイトを立ち上げ、イベントスケジュールや、花博検定(クイズ)、花すきんちゃん日記(ブログ)などのコンテンツを提供しました。



広報活動用ツールとして、花すきんちゃんをモチーフにしたピンバッジや携帯ストラップ、シールなどのノベルティーを制作しました。また、花の万博を記念してつくられたバラ「鶴見'90」を園芸雑誌のプレゼントにするなど、20周年記念事業の告知のために活用しました。郵便局株式会社が花の万博20周年を記念した切手を発行しました。



## 組織運営

### 理事会 2010年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第65回理事会	平成22年 4月8日(木)	協会会議室	役員報酬改定の件
第66回理事会	平成22年 6月25日(金)	経団連会館	平成21年度事業報告及び収支決算の件 評議員の選任の件
第67回理事会	平成22年 7月26日(月)	ホテルニューオータニ 東京	2010年(第18回)花の万博記念「コスモス国際賞」 受賞者の承認の件
第68回理事会	平成23年 3月25日(金)	経団連会館	基本財産の増額の件 平成22年度収支予算の補正の件 平成23年度事業計画及び収支予算の件 評議員の選任の件/役員報酬改定の件 新公益法人制度における公益財団法人への移行の件

### 評議員会 2010年度開催実績

	●開催日	●場 所	●議 題
第34回評議員会	平成22年 4月1日(木)	協会会議室	理事の選任の件 評議員会長の選任の件
第35回評議員会	平成23年 3月16日(水)	ホテルラフォーレ 新大阪	基本財産の増額の件 平成22年度収支予算の補正の件 平成23年度事業計画及び収支予算の件 新公益法人制度における公益財団法人への移行の件

## 2010年度決算

### 貸借対照表総括表 平成23年3月31日現在

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 資産の部</b>					
1. 流動資産					
現金預金	72,528,101				72,528,101
未収金	79,788,597			△79,788,597	0
未収収益	1,082,325	70,221,013	9,567,584		80,870,922
有価証券	22,626,000				22,626,000
前払金	712,500				712,500
流動資産合計	176,737,523	70,221,013	9,567,584	△79,788,597	176,737,523
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産定期預金			30,000,000		30,000,000
基本財産投資有価証券			800,000,000		800,000,000
基本財産合計			830,000,000		830,000,000
(2) 特定資産					
退職給付引当資産	42,276,900				42,276,900
事業推進引当資産	202,502,500				202,502,500
記念基金		8,142,567,000			8,142,567,000
特定資産合計	244,779,400	8,142,567,000			8,387,346,400
(3) その他の固定資産					
什器備品	84,991				84,991
その他の固定資産合計	84,991				84,991
固定資産合計	244,864,391	8,142,567,000	830,000,000		9,217,431,391
資産合計	421,601,914	8,212,788,013	839,567,584	△79,788,597	9,394,168,914

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>II 負債の部</b>					
1. 流動負債					
未払金	17,564,691	70,221,013	9,567,584	△79,788,597	17,564,691
預り金	1,121,798				1,121,798
賞与引当金	4,084,763				4,084,763
流動負債合計	22,771,252	70,221,013	9,567,584	△79,788,597	22,771,252
2. 固定負債					
退職給付引当金	42,276,900				42,276,900
事業推進引当金	350,000,000				350,000,000
固定負債合計	392,276,900				392,276,900
負債合計	415,048,152	70,221,013	9,567,584	△79,788,597	415,048,152
<b>III 正味財産の部</b>					
1. 指定正味財産					
寄付金		9,200,000,000	800,000,000		10,000,000,000
基本財産運用益			30,000,000		30,000,000
特定資産運用益		200,000,000			200,000,000
特定資産評価差額		△1,257,433,000			△1,257,433,000
指定正味財産合計		8,142,567,000	830,000,000		8,972,567,000
(うち基本財産への充当額)			(830,000,000)		(830,000,000)
(うち特定資産への充当額)		(8,142,567,000)			(8,142,567,000)
2. 一般正味財産	6,553,762				6,553,762
正味財産合計	6,553,762	8,142,567,000	830,000,000		8,979,120,762
負債及び正味財産合計	421,601,914	8,212,788,013	839,567,584	△79,788,597	9,394,168,914

正味財産増減計算書総括表 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益			9,440,024		9,440,024
基本財産受取利息			9,440,024		9,440,024
特定資産運用益	7,705,028	350,031,277			357,736,305
特定資産受取利息	7,705,028				7,705,028
記念基金受取利息		350,031,277			350,031,277
雑収益	363,371				363,371
受取利息	20,031				20,031
宿舍使用料収益	240,000				240,000
雑収益	103,340				103,340
他会計からの繰入額	359,471,301			△359,471,301	0
基本財産会計からの繰入額	9,440,024			△9,440,024	0
記念基金会計からの繰入額	350,031,277			△350,031,277	0
特定資産評価益	0				0
事業推進引当資産評価益	0				0
経常収益計	367,539,700	350,031,277	9,440,024	△359,471,301	367,539,700
(2) 経常費用					
事業費	383,471,104				383,471,104
記念事業費	142,350,220				142,350,220
資料等整備費	3,767,736				3,767,736
普及啓発費	114,340,887				114,340,887
20周年事業費	123,012,261				123,012,261
管理費	75,298,814				75,298,814
人件費	51,650,814				51,650,814
管理諸費	23,648,000				23,648,000
有価証券評価損	846,000				846,000
有価証券評価損	846,000				846,000
特定資産評価損	24,010,510				24,010,510
事業推進引当資産評価損	24,010,510				24,010,510
他会計への繰出額		350,031,277	9,440,024	△359,471,301	0
一般会計への繰出額		350,031,277	9,440,024	△359,471,301	0
経常費用計	483,626,428	350,031,277	9,440,024	△359,471,301	483,626,428
当期経常増減額	△116,086,728				△116,086,728
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△116,086,728				△116,086,728
一般正味財産期首残高	122,640,490				122,640,490
一般正味財産期末残高	6,553,762				6,553,762
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
特定資産運用益		350,031,277			350,031,277
記念基金受取利息		350,031,277			350,031,277
基本財産運用益			39,440,324		39,440,024
基本財産受取利息			39,440,324		39,440,024
特定資産評価損		597,563,000			597,563,000
記念基金投資有価証券評価損		597,563,000			597,563,000
一般正味財産への振替額		350,031,277	9,440,324		359,471,301
一般正味財産への振替額		350,031,277	9,440,324		359,471,301
当期指定正味財産増減額		△597,563,000	30,000,000		△567,563,000
指定正味財産期首残高		8,740,130,000	800,000,000		9,540,130,000
指定正味財産期末残高		8,142,567,000	830,000,000		8,972,567,000
<b>III 正味財産期末残高</b>	6,553,762	8,142,567,000	830,000,000		8,979,120,762

キャッシュ・フロー計算書総括表 平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

単位：円

科目	一般会計	記念基金会計	基本財産会計	内部取引消去	合計
<b>I 事業活動によるキャッシュ・フロー</b>					
1. 事業活動収入					
基本財産運用収入			39,440,000		39,440,000
基本財産利息収入			39,440,000		39,440,000
特定資産運用収入	8,747,538	364,889,129			373,636,667
記念基金利息収入		364,889,129			364,889,129
特定資産利息収入	8,747,538				8,747,538
雑収入	374,804				374,804
受取利息収入	31,464				31,464
宿舍使用料収入	240,000				240,000
雑収入	103,340				103,340
他会計からの繰入金収入	404,329,129			△404,329,129	0
基本財産会計からの繰入金収入	39,440,000			△39,440,000	0
記念基金会計からの繰入金収入	364,889,129			△364,889,129	0
事業活動収入計	413,451,471	364,889,129	39,440,000	△404,329,129	413,451,471
2. 事業活動支出					
記念事業費支出(配賦前)	123,646,135				123,646,135
資料等整備費支出(配賦前)	155,592				155,592
普及啓発費支出(配賦前)	85,190,369				85,190,369
20周年事業費支出(配賦前)	100,075,115				100,075,115
人件費支出(配賦前)	155,292,001				155,292,001
管理諸費支出(配賦前)	37,848,022				37,848,022
他会計への繰入金支出		364,889,129	39,440,000	△404,329,129	0
一般会計への繰入金支出		364,889,129	39,440,000	△404,329,129	0
事業活動支出計	502,207,234	364,889,129	39,440,000	△404,329,129	502,207,234
事業活動によるキャッシュ・フロー	△88,755,763	0	0	0	△88,755,763
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>					
1. 投資活動収入					
特定資産取崩収入	409,300				409,300
退職給付引当資産取崩収入	409,300				409,300
他会計からの繰入金収入			30,000,000	△30,000,000	0
一般会計からの繰入金収入			30,000,000	△30,000,000	0
投資活動収入計	409,300	0	30,000,000	△30,000,000	409,300
2. 投資活動支出					
特定資産取得支出	4,985,400				4,985,400
退職給付引当資産取得支出	4,985,400				4,985,400
他会計への繰入金支出	30,000,000			△30,000,000	0
基本財産会計への繰入金支出	30,000,000			△30,000,000	0
基本財産取得支出			30,000,000		30,000,000
基本財産取得支出			30,000,000		30,000,000
投資活動支出計	34,985,400	0	30,000,000	△30,000,000	34,985,400
投資活動によるキャッシュ・フロー	△34,576,100	0	0	0	△34,576,100
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>					
財務活動によるキャッシュ・フロー					
<b>IV 現金及び現金同等物の増減額</b>	△123,331,863	0	0	0	△123,331,863
<b>V 現金及び現金同等物の期首残高</b>	195,859,964	0	0	0	195,859,964
<b>VI 現金及び現金同等物の期末残高</b>	72,528,101	0	0	0	72,528,101

財団の概要（平成23年4月1日現在）

名 称	財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会 The Commemorative Foundation for the International Garden and Greenery Exposition,Osaka,Japan, 1990
設立趣旨	1990年に開催された国際花と緑の博覧会の基本理念を永く継承、発展させるため、国際花と緑の博覧会記念基金を設け、自然と人間との共生に関する諸事業を行い、もって潤いのある豊かな社会の創造に寄与しようとするものである。
設立年月日	1991年（平成3年）11月1日
主務官庁	農林水産省、国土交通省
所在地	〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

役員

会長	今井 敬	(社)日本経済団体連合会名誉会長
副会長	佐藤茂雄	大阪商工会議所会頭
理事長	三井康壽	政策研究大学院大学客員教授
専務理事	日尾野興一	常勤
常務理事	大槻憲章	常勤
理事	井手久登	東京大学名誉教授
理事	今西英雄	JFTD学園日本フラワーカレッジ校長
理事	小河保之	大阪府副知事
理事	北山啓三	大阪市副市長
監事	北山諒一	公認会計士
監事	堀井良股	(財)大阪21世紀協会理事長

任期:平成22年4月1日～平成24年3月31日

評議員

評議員	青木保之	(財)首都高速道路協会相談役
評議員	麻生 渡	全国知事会会長
評議員	小林庄一郎	関西電力(株)顧問
評議員	近藤公夫	奈良女子大学名誉教授
評議員	佐々木正峰	(独)国立科学博物館顧問
評議員	堂元 光	日本放送協会大阪放送局局長
評議員	長倉三郎	前日本学士院長
評議員	橋下 徹	大阪府知事
評議員	羽田光一	(社)日本家庭園芸普及協会会長
評議員	畑中孝晴	(財)日本花普及センター副会長
評議員	波多野敬雄	(学)学園院院長
評議員	濱口義隆	(財)農村更正協会会長
評議員	樋口武男	大阪商工会議所副会頭
評議員	平松邦夫	大阪市長
評議員	藤巻司郎	(社)日本造園建設業協会会長
評議員	藤原忠彦	全国町村会会長
評議員	松下正幸	(財)松下幸之助記念財団理事長
評議員	森 民夫	全国市長会会長

任期:平成22年4月1日～平成24年3月31日

顧問

豊 蔵 一	
中川和雄	大阪日韓親善協会会長
牧野 徹	(財)日本住宅総合センター理事長

任期:平成22年4月1日～平成24年3月31日

参 与

泉 眞也	環境プロデューサー
岩槻邦男	兵庫県立人と自然の博物館館長
久野明子	(社)日米協会理事
澤田隆治	(社)全日本テレビ番組制作社連盟顧問
中村桂子	JT生命誌研究館館長
平野侃三	東京農業大学名誉教授
樋口春三	(学)平松学園大分短期大学学長
松延洋平	ジョージタウン大学客員教授
松本 洋	(財)国際文化会館理事
ルイ・サトウ	在仏建築家

任期:平成22年4月1日～平成24年3月31日

協会事務局 (TEL : 06-6915-4500、FAX : 06-6915-4524)

〈担当業務〉

- ◆総務部 (TEL : 06-6915-4500)  
〈理事会・評議員関係、予算・決算、基金運用等〉
- ◆企画部 (TEL : 06-6915-4516)  
〈助成事業、伝統園芸植物の普及啓発、花と緑に関する普及啓発等〉
- ◆事業部 (TEL : 06-6915-4513)  
〈コスモス国際賞関係、KOSMOSフォーラム、コスモスセミナー関係等〉

## 2011年度(平成23年度)事業計画

### 博覧会に関する記念事業

#### 1. 2011年(第19回)「コスモス国際賞」

国際花と緑の博覧会(以下「花の万博」という)の基本理念である「自然と人間との共生」に合致する研究活動や業績を顕彰し、永く記念するため2011年(第19回)「コスモス国際賞」事業を実施します。

平成23年度は、2011年の受賞者の選考、決定及び2012年(第20回)の選考準備を行います。2011年の受賞者は7月下旬を目途に承認、発表し、10月18日に授賞式を開催します。

#### 2. 受賞記念講演会等

「コスモス国際賞」授賞式に関連して、受賞者の記念講演会等を開催します。

開催時期：平成23年10月中旬

開催場所：東京と大阪の2カ所

### 博覧会に関する情報、資料の整理、保存

#### 映像による日本植物誌事業

(PPH：プラント・フォト・ハンティング)

花の万博当時から撮影し蓄積している日本の植物動画映像(約850時間、約4,000種)のデータベースを基に制作した「サクラソウ」「コウヤマキ」などのDVD作品が概成したのでその紹介リーフレットを作成し、PPHの有効活用を図ります。

### 博覧会理念の普及啓発・継承発展事業

#### 1. 理念の継承発展の推進事業

##### ◆KOSMOSフォーラム

花の万博の理念の継承発展を図るため、自然科学、人文・社会科学の各分野を越えた学術の交流と融合を目指す学者・研究者のネットワークづくりの場となるフォーラムを引き続き開催します。

##### ◆花と自然のまちづくりフォーラム

全国の花の万博の理念に沿った優れたまちづくりの事例を参考にして、住民や団体等のグループが主体となり地域の気候や風土等の特性に合わせた個性豊かな花と自然のまちづくりの促進に資するため、今年度より開催します。

##### ◆コスモスセミナー

花の万博の理念の継承と啓発を目的として、協会事業に関係する学者、知識人等を講師に招き、セミナー(自然観察教室、小学校への講師派遣)を引き続き実施します。

#### 2. 花と緑に関する国際交流の推進

博覧会国際事務局(BIE)と共催で、花の万博の理念を継承し、かつ今後開催される国際博覧会のテーマに沿った先駆的市民活動に対する顕彰事業として設けたBIEコスモス賞を、平成24年開催の韓国麗水での授与について協議します。

#### 3. 花と緑に関する全国的な普及啓発

##### ◆全国花のまちづくりコンクール

花の万博開催を契機に、「花と緑の国づくり及びまちづくり」を目的として、農林水産省及び国土交通省の提唱により平成3年度に創設されたもので、平成23年度は21回目を迎えます。

主催：花のまちづくりコンクール推進協議会

##### ◆花育活動推進事業

花育とは、農林水産省、国土交通省及び文部科学省の指導・支援の下、花き業界や造園業界等の関係団体が主体となって、花や緑を通じて子供たちの情操教育を行うもので、平成20年度から全国花育活動推進協議会に参画して、その推進に努めています。23年度は花育事業のより一層の推進とそれを促進するツールとして花育活動実践マニュアルと花育副読本を作成します。

##### ◆大阪府市理念継承事業

花の万博開催の地元において実施する理念の継承・普及啓発に関する事業を、地元公共団体及び各種団体等との共催等により実施します。また、今年度より新たに、花や緑、生き物などの都市における自然の構成要素すべての総称としての「みどり」をネットに拡大していくための「みどりのネットワーク構築検討プロジェクト」の推進を行います。

##### ◆その他の普及啓発

花の万博の理念の普及啓発のために、各種団体等が実施する行催事等を共催により実施するほか、協賛、後援等を行います。

#### 4. 花と緑に関する調査研究等の推進

花の万博理念の継承発展及び普及啓発に資する「調査研究開発」並びに「活動・行催事」を支援するため、全国公募による助成事業を引き続き行います。

また、これまでの助成事業の「成果発表会」を開催します。

#### 5. 情報発信運営に関する業務

##### ◆協会ホームページの運営等

協会が実施する事業への理解促進及び普及のため、協会のホームページ並びに「コスモス国際賞」、「KOSMOSフォーラム」のホームページの運営管理を行います。また、協会の概要を周知するためのパンフレット及び年次報告書等を作成します。

##### ◆プレスネットワークの構築

コスモス国際賞をはじめ協会事業の認知度を高めるため、プレス等との共催事業を実施し、ネットワークの構築を行います。

##### ◆コスモス国際賞受賞者との連携事業等

コスモス国際賞の意義、受賞者の研究業績、授賞式及び記念講演会の内容等を取りまとめた報告書を作成、配付します。また、受賞者の著作物等の各種情報を収集し、これらを協会ホームページで紹介いたします。

### 20周年記念事業

平成24年度に20回目の顕彰を迎えるコスモス国際賞の関連事業を行います。



財団法人 国際花と緑の博覧会記念協会

〒538-0036 大阪市鶴見区緑地公園2番136号

TEL.06-6915-4500 FAX.06-6915-4524

<http://www.expo90.jp/>

表紙の写真：2010年(第18回)コスモス国際賞授賞式に用いたコサージ・ブートニアで、受賞者エステル・B.レオボルド博士の父との思い出の地ウィスコンシン州バラブーに咲くコンバズプラントをデザインしました。